

## テーマ：採血

### 「一般教育目標」

臨床実習において採血が出来るよう、実技を習得する。

### 「個別目標」

<技能> 患者さんに対する苦痛を最小限にとどめ、合併症を起こさず正しく採血が出来る。

<態度> 1. 採血に備えての心がけをする。(爪の手入れ、手や白衣の清潔等、)

2. 採血に際しては、患者さんにその必要性を説明し、了解を得る。

3. 患者さんに不快な思いをさせないよう配慮する。

4. 手順を患者さんに説明し採血を行う。

### 「手技解説」

- ①被検者を椅子に腰掛けさせ、腕を肘枕の上に乗せ少し肩を落とした姿勢をとらせる。
- ②針の刺入部より10cmくらい上の部分に駆血帯をかけ、結び目は患者の上腕の方を向くように結ぶ。
- ③患者に拇指を中にして手を握らせ静脈を怒張させる。
- ④アルコール綿で、採血予定部位を消毒する。
- ⑤針の先端の斜角を上方にし、刺入角度が15度となるようにして注射針をしずかに、しかしすばやく肘正中皮静脈に刺入する。
- ⑥針先が確実に静脈内に入ったら、内筒をゆっくり引いて血液を採取する。
- ⑦採血終了後駆血帯をはずし、握っていた手を開かせる。
- ⑧アルコール綿で刺入部を軽く押さえつつ針を抜く。
- ⑨直ちに圧迫して止血さすか、止血するまで肘関節を屈曲させ採血部を圧迫しておく。
- ⑩採血された血液はあらかじめ用意した試験管にうつし、使用後の針は専用容器に捨てる。

### (合併症)

血腫：静脈穿刺時一度静脈内に入った針がさらに反対側の壁を破って突き抜けること、あるいは静脈壁がさけることによって起こる。

感染：挿入時の不潔操作によって起こる。

### (注意点)

- ①血管が出にくいときは、上腕を蒸しタオルで暖めるか、こぶしを握ったり開いたりしてもらおう。
- ②強く引くと溶血を起こすことがあるので、内筒は静かに引く。
- ③2分以上うつ血させると血液性状に変化をきたすので、採血は慎重かつ速やかに行う。
- ④患者の血液から感染しない様、注射針の廃棄時、指先に刺さぬ様に十分注意を払う。